



道二翁道弘六卷
中

9
3406
14



押せ。ちやいと止める。結ぶ合点して見ると、何んの
 大子れ子を。かもしく小きりので。満更なるを。懐
 家さるまじいなり。此方便を。いぢ大慈大
 悲の由。教に。や。まが九ツ十ヲ。なり。ふも。あ。と。モウ
 かもしく。で。い。初ぬ。そ。招ふ。け。忘。地。で。い。日。向。へ。でも。整。え。仕
 也。も。や。な。ぬ。炭。焼。み。き。ると。き。ひ。團。へ。は。ま。り。て。行。か。し
 う。晩。まで。山。を。炭。を。焼。く。焼。て。居。て。ど。く。も。出。る。子
 いる。ぬ。ぞ。と。お。と。せ。ば。ま。青。の。ぬ。く。魚。他。を。止。め。る。又。は。せ
 ぐ。わ。ふ。ぬ。く。く。か。も。し。く。や。炭。焼。で。い。合。点。せ。ぬ。げ。度。い
 島。南。せ。ば。ぬ。ま。い。一。家。親。類。の。相。法。も。完。め。る。と。い。ふ。と。

い。や。と。ま。り。う。う。う。と。出。た。科。の。種。い。一。家。同。行。の。徒。て
 海。に。い。ど。科。の。重。い。い。ま。切。り。小。親。子。の。縁。を。切。り。仕。ま。ふ。
 実。は。劫。尚。と。る。氣。い。る。い。親。い。派。に。け。し。く。ど。う。ぞ。若。心。い
 なる。く。と。ふ。む。の。り。神。佛。の。教。へ。も。此。母。り。由。慈。悲。が
 け。ま。り。て。又。く。振。り。と。り。の。小。た。人。名。み。よ。と。く。げ。ん。ま。り
 あ。い。て。る。い。ゆ。其。教。の。名。り。迷。ひ。形。は。迷。ひ。く。く。し。む。
 向。ふ。よ。道。い。る。い。皆。家。後。此。中。へ。ま。り。の。と。や。女。中。の。鏡。を
 みる。鏡。は。心。を。は。して。万。形。の。福。を。の。り。髪。結。り。白。粉
 ま。り。髪。が。い。ご。い。せ。ぬ。う。白。粉。が。ま。り。う。い。る。と。向。ひ
 の。鏡。小。用。い。る。い。皆。此。方。の。形。を。盡。し。の。と。や。神。佛。を。お

多い。まゆ人のくじこトヤ。是が魚い子してもまなり小
 清とては血い。よい子をりて。此の海下ら中る。天
 道採る。此中に水に承ら。續くぬッイ磨る。信也。天乃ハ
 さう。このでい。古今わぬ。い道。つるゆへ
 吾小吾報魚小魚報。途る子い。ぬ。△蓮師の沖書小
 暗中。有影。水中。有魚。道。虚空。有鳥。跡。四。天
 下。之。物。一。物。不。闕。人。不。見。之。三。世。諸。佛。照
 覽。之。日。蓮。推。之。ト云云。或知識會之
 生死乃往もゆも信入て。されも道。日すき。このけり
 生死去来も天の道。なるゆ。後。とも。が。今日。勤。め。行。ふ

道が来り。如来乃行。道トヤ。
 乃と云。云。紫。迷。る。子。な。ん。れ。教。々。お。の。が。る。の。業。と。知。ま。し
 ちのぐるに業。ハ。教。々。晩。ま。で。此。家。業。も。来。不。如。来。乃。行
 道トヤ。まを。知。ぬ。ゆ。我。子。な。り。り。い。付。魚。い
 子と。は。い。く。南。無。阿。弥。陀。佛。く。と。た。ん。と。毒。食。ふ。く
 ち。と。毒。消。却。す。と。と。利。多。苦。ら。る。い。何。乃。役。ト
 たり。ゆ。ト。ヤ。朝。工。道。成。夢。く。夕。死。ま。も。可。なり。
 道ハ。近。き。ふ。り。然。る。を。遠。き。ふ。り。む。向。ふ。乃。ハ。い。
 其。親。を。親。く。て。其。長。城。長。く。何。も。ふ。も。む。ら。う。い
 子。い。る。い。知。ま。し。通。り。を。ま。る。の。ト。ヤ。そ。知。ま。し。海。り。が

法苑を得るとも一念の源城知らざればいつづらざるなり
 と即今の一念小迷へば地獄となり。一念悟きば極樂と
 ある。大なり此事トヤ。むかし釈迦妙乗に地獄天堂とい
 はん。と尋ねば。釈迦妙乗が是の指を動して是が
 地獄。是が天堂といふ。此一念の向け申すで。
 地獄とも極樂ともある。大極をいひのよや。い。
 神道とも唯一といふ。即今此身はまゝ。あつても
 も。あつても知るも。或は神の道トヤ。去によろしく目ふあり
 くの不浄。然るも心ふらるるの不浄を。見れば。といふ
 阿ふ。我々人。あはれおま。一ツ。て。あつても。悟ひ。か。ま。の。イヤ

どういつうが海ぬが。信が。笑へぬと。養埃を。い。り。か。し。出
 て。く。さ。い。く。いつう。の。と。や。く。さ。い。り。が。つ。や。あ。つ。う。ご。り。く
 せ。ら。ぬ。が。よ。い。ご。り。く。は。こ。ら。が。世。俗。せ。い。でも。小。便。な。り。が。あ。つ。て
 去。ぬ。の。小。さ。く。揚。げ。れ。不。浄。城。に。出。し。せ。知。れ。其。我。見。を。離
 ち。て。夫。の。心。で。あ。つ。て。死。ハ。少。し。も。あ。つ。て。不。浄。な。る。の。い
 る。い。ま。で。な。ん。と。い。ふ。と。い。ふ。く。れ。不。浄。城。に。出。し。つ。ら。り。ト。や。
 凡。れ。も。本。ん。あ。つ。ぬ。と。此。道。理。が。合。点。し。少。い。ま。た。八。岐。の
 大。蛇。と。いつ。う。か。あ。つ。い。化。ま。の。ダ。出。来。さ。り。の。と。や。い。ハ。岐。の
 大。蛇。と。いつ。う。か。私。心。の。塊。り。抄。色。が。く。れ。大。將。ト。や。鞍。一。つ。を
 首。が。ハ。つ。あ。る。よ。い。娘。ト。や。いつ。う。て。い。首。が。わ。つ。と。あ。る。あ。ま。が

ちんちんいすぬ。といふくハ首がわつと出る。何をいふも金の
 子トヤ。といふくハ首が出る。是程おまが世話する小法師が
 さういふやうに首が出る。又女中此大蛇ハ細縮緬の舌を袖
 口よりむりくと出。お源さんが天竺絨の帯能く似合と
 人形も衣裳トヤ。と首がわつと出る。是の横井がなれど
 うぬと首がわつと出る。怪いかういふはハ神の度く小
 ぬんぬくと首が出る。おまが幾つまで幾つ首が出るや
 ぬんぬハつとハ始めと終りぬありて早免陽りれぬ杖トヤ
 子持去足持とといふ。祖父換祖母換の首よりハさういふ
 小縮緬を。ちんちんとする。横井の此大蛇といふハ

又殺れらるハ蛇姫君狐年久しく喰ひのこ。我勝に去り大
 毒蛇。此大蛇妖素盞雄尊がむさう。小切な尾此先く
 村雲の御劔がわつといふ。お心み私心が平治する人。
 村雲の御劔といふ。後小政女。草打さの御劔といふ。
 何でも毒蛇を殺してさへ仕也ハ宝劔が出る。此大蛇か
 宝劔尻尾小まさんるわさ。此何の役もたぬぬり。
 ぬんぬくと首が出る。此大蛇を退治して仕也ハ神
 道の神劔トヤ。迷ハ大蛇悟色ハ宝劔此宝劔の御徳で
 天下右平國家安穩五穀成茂み納つこのトヤ。大切な
 宝劔トヤ。いふく。一休和尚も

ござる。少しも口け痛い。是が一寸も貫つてござるのどや。
此廣大の血意怒が又ぬゆ。暗の暗みかりたる。灯籠の光
もつりれど。朝も暁まで三子世界を照してござる。血
意もきこるりと。そのあつれ中うに。あつて。まよふまよふ
わるイヤ。今日。日。和がよしの悪い。何ぞ。給銀でも出して
居る。中うに。勿絆る。中うや。

團意とは。沖制度の血うげで。盗賊劫懸の笑ひもなす。
今日。何の音もひる。家業。人。情。出せば。藩園の。人。血
麻起して。三度の。血。飯。たぐる。大。担。首。懸。ひ。中。う。や
る。い。む。し。軍。の。時。分。い。ど。ん。あ。その。ど。や。あ。げ。何。く。が。は。中

どや。物喰う。中う。喰。ぬ。中う。親子。兄弟。夫婦。も。ら。り。ぐ。を。り。く。
何時。首。が。飛。ぶ。中う。槍。を。突。き。る。中う。鉄。炮。小。當。る。中
中う。あ。づ。る。い。命。泣。く。も。泣。き。ぬ。お。ら。し。い。中。う。の。り。り。き。
時。大。山。城。表。盗。ハ。強。盗。人。あり。強。銀。の。貯。へ。何。く。ハ。引
た。ら。つ。て。は。血。入。り。や。と。い。つ。つ。命。が。ない。可。き。い。女。房。子
娘。い。ま。等。が。あ。ふ。非。業。を。死。を。も。る。で。何。く。し。ど。の。中。う。か
め。あ。き。つ。て。も。制。止。し。て。ら。ま。る。人。が。ない。中。う。ど。も。は。中。う。か
ま。い。女。中。方。う。ご。子。強。盗。も。あ。る。い。ど。い。る。中。う。ウ。イ。は。さ
つ。中。う。あ。り。ど。や。る。い。其。中。う。あ。る。中。う。今。日。は。あ。り
懸。ひ。中。う。何。ん。ま。り。血。意。が。大。イ。中。何。ん。も。と。を。だ。ま。さ。げ。上。が

何うと云うて。どうのうの小まむのり勿辨といふトや
罰が當らうやなむねまづトや。

師慧といひ知しぬるハ。知人又同くする。何屋何屋指
ハしてござりまは。是かここの教目。いふまゝござりまは。
とつて辨義する。どう入辨義するのトや。皆天へは辨
義するのトや。觀音ハ師教は為ふ。寶冠五鉢陀といふ
たとひ。六十万億那由多恒河沙由旬の阿もは換が。
どうしてあははれよといふまゝなるもので。天へは辨義を
るのが別阿もは換をいふまゝなるのトや。親者さういハ
天をいふは通一にしてござることといふのトや。又勢至ハ

親孝は為ふ父母の骨と陰戴はといふて。何れも親れ孝と云ふは
といふ。親の恩は知してさういふと云ふ果てか。さう代何でも
さういふ終入さへてわ。檀多佛の西条一振ま。草は菜でも
さういふトや。何の波にまぬる。終入さへてわ。親れ目も各
は二親成が。さういふ。何れもさやせぬ。抑母の終入さへて
さう。親れ素ト云ふ。いふまゝ。さういふ。父親ハ男の
と世同の人目ハ素トぬらしてわ。たれと。産ま。ま。ま。いんまひ
どうぞ。多。多。息。息。安。安。産。産。い。い。ま。ま。い。中
の神佛。い。い。の。の。日。日。と。と。い。此。大。恩。を。う。り。でも。山。山。と。と
さう。母。の。必。恩。ハ。海。上。を。流。く。十。月。が。る。れ。う。れ。う。と。

下も三子世界ぬ形つゝそのに皆一切衆生トや。此の衆生が
天の由慈悲もさうらめ衆の由光明でまふ助り助け
今も極樂の由渡得船佛様が船中先小人をまかせ
違れれを棹して由助けたるは佛様を渡して
助り。人の渡してさうらめ助り。双方まれ助り合
此極樂の縁相は身にまはりてんまは皆先何をも
佛は光明トや。け縁相が又ぬく。結構な在酒で
由飯喰つて。是る身をわぬぬ人どつぞ助けぬく。
とハアサクくどのやふ助けのトや。けけり志まぬ縁代
のむじハ家居といふもな。皆定を助く送の

居が助りぬく居。何をもやせむられよふらじし
ても是納もまは有縁ひで。く人ものみか心の
向中がぬいぬ

極樂は中み居て六道の通りまらざり色なりなり
此の何喰へても味がよい。モウ胡麻のまらなりな。是もハ
よら月ど地獄へ踏うつつわのトや。ふ人をあじし
そとてよらぐん迷つてまら。げよい。廣大無量の由
慈悲は知れぬ。皆外道へ流してな。あつて

道二翁道活六篇卷之中終

